

# 中間連結財務諸表

平成19年度中間期は金融商品取引法第193条の2の規定に基づき、平成18年度中間期及び平成18年度は証券取引法第193条の2の規定に基づき、当行の(中間)連結貸借対照表、(中間)連結損益計算書、(中間)連結株主資本等変動計算書及び(中間)連結キャッシュ・フロー計算書については、あずさ監査法人の監査証明を受けております。

## 中間連結貸借対照表

(金額単位 百万円)

科目	平成18年度中間期末 平成18年9月30日現在	平成19年度中間期末 平成19年9月30日現在	平成18年度末 平成19年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>			
現金預け金	3,928,282	5,876,290 <sup>8</sup>	3,954,022
コールローン及び買入手形	1,477,077	1,368,235	1,102,078
買現先勘定	110,257	371,109	76,551
債券貸借取引支払保証金	1,178,045	1,064,257	2,276,894
買入金銭債権	941,102	1,094,486	960,591
特定取引資産	3,385,488	3,465,521 <sup>8</sup>	3,262,341
金銭の信託	2,820	2,627	2,924
有価証券	22,166,757	20,296,830 <sup>1,2,8,15</sup>	20,304,639
貸出金	59,760,811	61,211,477 <sup>3,4,5,6,7,8,9</sup>	59,617,850
外国為替	929,490	926,162 <sup>7</sup>	881,436
その他資産	1,608,992	2,243,793 <sup>8</sup>	1,630,049
有形固定資産	626,724	753,109 <sup>10,11,12</sup>	755,891
無形固定資産	85,659	109,257	101,219
リース資産	26,043	28,920 <sup>11</sup>	26,922
繰延税金資産	946,630	849,249	804,627
支払承諾見返	3,824,571	4,960,038	3,673,396
貸倒引当金	949,212	898,698	860,799
<b>資産の部合計</b>	<b>100,049,543</b>	<b>103,722,670</b>	<b>98,570,638</b>
<b>(負債の部)</b>			
預金	72,216,146	72,972,993 <sup>8</sup>	72,200,343
譲渡性預金	2,509,353	2,580,792	2,626,217
コールマネー及び売渡手形	2,562,041	2,202,690 <sup>8</sup>	2,286,698
売現先勘定	805,915	143,081 <sup>8</sup>	140,654
債券貸借取引受入担保金	3,141,635	2,747,480 <sup>8</sup>	1,516,342
特定取引負債	1,930,582	2,160,272 <sup>8</sup>	1,941,142
借入金	1,849,359	3,211,399 <sup>8,13</sup>	2,034,633
外国為替	329,273	341,203	323,890
短期社債	3,500	1,000	3,500
社債	4,004,370	3,867,859 <sup>14</sup>	3,929,325
信託勘定借	50,733	45,893	65,062
その他負債	2,197,060	2,921,442 <sup>8</sup>	2,279,167
賞与引当金	16,464	18,160	18,919
退職給付引当金	13,493	15,973	13,382
役員退職慰労引当金	—	6,094	6,233
預金払戻引当金	—	11,716	—
特別法上の引当金	18	18	18
繰延税金負債	48,090	54,674	49,714
再評価に係る繰延税金負債	49,929	49,347 <sup>10</sup>	49,536
支払承諾	3,824,571	4,960,038 <sup>8</sup>	3,673,396
<b>負債の部合計</b>	<b>95,552,539</b>	<b>98,312,132</b>	<b>93,158,180</b>
<b>(純資産の部)</b>			
資本金	664,986	664,986	664,986
資本剰余金	1,603,512	1,603,512	1,603,512
利益剰余金	448,757	753,192	581,619
株主資本合計	2,717,256	3,021,691	2,850,119
その他有価証券評価差額金	850,289	1,061,772	1,269,385
繰延ヘッジ損益	87,669	93,158	87,571
土地再評価差額金	37,865	37,261 <sup>10</sup>	37,526
為替換算調整勘定	52,757	15,571	37,194
評価・換算差額等合計	747,728	990,304	1,182,145
新株予約権	4	27	14
少数株主持分	1,032,013	1,398,514	1,380,179
<b>純資産の部合計</b>	<b>4,497,004</b>	<b>5,410,538</b>	<b>5,412,458</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>100,049,543</b>	<b>103,722,670</b>	<b>98,570,638</b>

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結損益計算書

(金額単位 百万円)

科目	平成18年度中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成18年度 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
経常収益	<b>1,352,539</b>	<b>1,554,755</b>	<b>2,925,665</b>
資金運用収益	894,549	1,072,847	1,950,234
(うち貸出金利息)	(635,622)	(762,157)	(1,348,997)
(うち有価証券利息配当金)	(158,254)	(168,821)	(369,548)
信託報酬	1,407	2,239	3,482
役務取引等収益	284,445	268,131	577,435
特定取引収益	54,496	107,651	118,589
その他業務収益	98,184	73,665	197,172
その他経常収益	19,456	30,221 <sup>1</sup>	78,750
経常費用	<b>1,033,774</b>	<b>1,238,720</b>	<b>2,208,967</b>
資金調達費用	344,291	474,291	796,784
(うち預金利息)	(199,967)	(276,835)	(457,221)
役務取引等費用	60,513	64,165	111,413
特定取引費用	2,883	—	1,936
その他業務費用	130,603	86,388	236,292
営業経費	378,653	397,327	768,498
その他経常費用	116,829	216,547 <sup>2</sup>	294,042
経常利益	<b>318,765</b>	<b>316,035</b>	<b>716,697</b>
特別利益	<b>49,150</b>	<b>1,295<sup>3</sup></b>	<b>46,028</b>
特別損失	<b>3,843</b>	<b>3,800<sup>4,5</sup></b>	<b>12,003</b>
税金等調整前中間(当期)純利益	<b>364,072</b>	<b>313,530</b>	<b>750,722</b>
法人税、住民税及び事業税	<b>24,587</b>	<b>21,428</b>	<b>47,601</b>
法人税等調整額	<b>91,217</b>	<b>82,900</b>	<b>238,764</b>
少数株主利益	<b>28,188</b>	<b>37,893</b>	<b>62,561</b>
中間(当期)純利益	<b>220,078</b>	<b>171,308</b>	<b>401,795</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結株主資本等変動計算書

平成18年度中間期（自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）

（金額単位 百万円）

	株主資本			株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	
平成18年3月31日残高	664,986	1,603,512	542,551	2,811,051
中間連結会計期間中の変動額				
剰余金の配当			300,027	300,027
中間純利益			220,078	220,078
連結子会社の増加に伴う増加			388	388
連結子会社の減少に伴う減少			14,452	14,452
土地再評価差額金取崩			218	218
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)				
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	93,794	93,794
平成18年9月30日残高	664,986	1,603,512	448,757	2,717,256

（金額単位 百万円）

	評価・換算差額等					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成18年3月31日残高	793,731	—	38,080	44,568	787,243	—	1,081,148	4,679,443
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当								300,027
中間純利益								220,078
連結子会社の増加に伴う増加								388
連結子会社の減少に伴う減少								14,452
土地再評価差額金取崩								218
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)	56,558	87,669	214	8,188	39,514	4	49,135	88,645
中間連結会計期間中の変動額合計	56,558	87,669	214	8,188	39,514	4	49,135	182,439
平成18年9月30日残高	850,289	87,669	37,865	52,757	747,728	4	1,032,013	4,497,004

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

平成 19 年度中間期 (自平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 9 月 30 日)

(金額単位 百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
平成 19 年 3 月 31 日残高	664,986	1,603,512	581,619	2,850,119
中間連結会計期間中の変動額				
中間純利益			171,308	171,308
土地再評価差額金取崩			263	263
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)				
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	171,572	171,572
平成 19 年 9 月 30 日残高	664,986	1,603,512	753,192	3,021,691

(金額単位 百万円)

	評価・換算差額等					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成 19 年 3 月 31 日残高	1,269,385	87,571	37,526	37,194	1,182,145	14	1,380,179	5,412,458
中間連結会計期間中の変動額								
中間純利益								171,308
土地再評価差額金取崩								263
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)	207,612	5,586	264	21,623	191,840	12	18,335	173,492
中間連結会計期間中の変動額合計	207,612	5,586	264	21,623	191,840	12	18,335	1,919
平成 19 年 9 月 30 日残高	1,061,772	93,158	37,261	15,571	990,304	27	1,398,514	5,410,538

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

平成 18 年度 (自平成 18 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 3 月 31 日)

(金額単位 百万円)

	株主資本			株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	
平成 18 年 3 月 31 日残高	664,986	1,603,512	542,551	2,811,051
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当			349,221	349,221
当期純利益			401,795	401,795
連結子会社の増加に伴う増加			388	388
連結子会社の減少に伴う減少			14,452	14,452
土地再評価差額金取崩			558	558
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)				
連結会計年度中の変動額合計	—	—	39,068	39,068
平成 19 年 3 月 31 日残高	664,986	1,603,512	581,619	2,850,119

(金額単位 百万円)

	評価・換算差額等					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成 18 年 3 月 31 日残高	793,731	—	38,080	44,568	787,243	—	1,081,148	4,679,443
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当								349,221
当期純利益								401,795
連結子会社の増加に伴う増加								388
連結子会社の減少に伴う減少								14,452
土地再評価差額金取崩								558
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	475,654	87,571	554	7,373	394,901	14	299,030	693,946
連結会計年度中の変動額合計	475,654	87,571	554	7,373	394,901	14	299,030	733,014
平成 19 年 3 月 31 日残高	1,269,385	87,571	37,526	37,194	1,182,145	14	1,380,179	5,412,458

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(金額単位 百万円)

区分	平成18年度中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成18年度 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
Ⅰ 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	364,072	313,530	750,722
固定資産減価償却費	29,714	30,351	60,238
リース資産減価償却費	4,258	4,275	8,520
減損損失	2,006	3,095	4,750
のれん償却額	—	0	—
負ののれん償却額	101	—	1,301
持分法による投資損益( )	41,421	12,366	123,266
子会社株式売却損益及び子会社の増資に伴う 持分変動損益( )	4,583	115	4,496
貸倒引当金の増加額	55,875	9,453	145,111
賞与引当金の増加額	1,140	1,603	1,310
退職給付引当金の増加額	3,742	166	3,854
役員退職慰労引当金の増加額	—	206	6,233
預金払戻引当金の増加額	—	11,716	—
資金運用収益	894,549	1,072,847	1,950,234
資金調達費用	344,291	474,291	796,784
有価証券関係損益( )	57,072	50,542	70,598
金銭の信託の運用損益( )	0	245	0
為替差損益( )	41,510	36,291	103,510
固定資産処分損益( )	1,144	413	2,584
リース資産処分損益( )	53	31	100
特定取引資産の純増( )減	628,716	187,973	763,659
特定取引負債の純増減( )	965,681	203,235	969,330
貸出金の純増( )減	2,311,502	1,654,310	2,130,573
預金の純増減( )	1,333,888	821,720	1,302,620
譲渡性預金の純増減( )	770,330	47,463	664,304
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減( )	921,806	855,045	1,162,388
有利息預け金の純増( )減	417,831	1,390,479	150,273
コールローン等の純増( )減	996,973	679,034	603,971
債券貸借取引支払保証金の純増( )減	778,605	1,212,637	320,243
コールマネー等の純増減( )	5,047,597	85,313	5,994,528
債券貸借取引受入担保金の純増減( )	394,509	1,231,137	1,230,782
外国為替(資産)の純増( )減	18,596	43,849	66,917
外国為替(負債)の純増減( )	118,530	16,960	124,047
短期社債(負債)の純増減( )	500	2,500	500
普通社債の発行・償還による純増減( )	81,470	133,716	197,191
信託勘定借の純増減( )	267,864	19,169	253,534
資金運用による収入	890,698	1,061,326	1,938,214
資金調達による支出	318,536	446,137	761,307
その他	204,768	403,101	247,394
小計	5,447,037	961,064	8,302,795
法人税等の支払額	20,092	35,727	32,726
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>5,467,129</b>	<b>925,336</b>	<b>8,335,522</b>

(金額単位 百万円)

区分	平成18年度中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成18年度 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出	18,518,038	17,896,734	35,030,697
有価証券の売却による収入	11,381,825	10,628,214	21,535,631
有価証券の償還による収入	10,257,301	6,890,375	18,886,345
金銭の信託の増加による支出	—	547	—
金銭の信託の減少による収入	—	796	—
有形固定資産の取得による支出	16,167	15,948	171,456
有形固定資産の売却による収入	3,552	2,170	7,909
無形固定資産の取得による支出	16,142	19,601	44,338
無形固定資産の売却による収入	3	3	4
リース資産の取得による支出	4,831	3,578	9,903
リース資産の売却による収入	1,650	255	2,048
子会社株式の一部売却による収入	3,468	198	3,468
連結範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	—	3,453	1,317
投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>3,092,619</b>	<b>417,850</b>	<b>5,177,694</b>
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
劣後特約付借入による収入	10,000	25,000	20,000
劣後特約付借入金返済による支出	15,000	63,000	83,000
劣後特約付社債・新株予約権付社債の発行による収入	120,000	90,000	196,951
劣後特約付社債・新株予約権付社債の償還による支出	126,829	19,700	181,283
配当金支払額	300,031	0	349,227
少数株主からの払込みによる収入	30,740	3,425	360,362
少数株主への配当金支払額	29,962	33,289	45,797
財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>311,083</b>	<b>2,434</b>	<b>81,995</b>
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	<b>1,276</b>	<b>1,079</b>	<b>3,432</b>
V 現金及び現金同等物の増加額(は現金及び現金同等物の減少額)	<b>2,684,317</b>	<b>510,999</b>	<b>3,236,390</b>
VI 現金及び現金同等物の期首残高	<b>5,155,217</b>	<b>1,907,823</b>	<b>5,155,217</b>
VII 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	<b>0</b>	<b>18,869</b>	<b>0</b>
VIII 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	<b>11,003</b>	<b>—</b>	<b>11,003</b>
IX 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	<b>2,459,896</b>	<b>2,437,692<sup>1</sup></b>	<b>1,907,823</b>

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 1. 連結の範囲に関する事項

### (1) 連結子会社 130社

#### 主要な会社名

株式会社みなと銀行  
株式会社関西アーバン銀行  
Sumitomo Mitsui Banking Corporation Europe Limited  
Manufacturers Bank  
株式会社クオーク  
SMBCファイナンスサービス株式会社  
SMBC Capital Markets, Inc.

なお、株式会社クオーク他5社は議決権の所有割合の増加等により子会社となったため、当中間連結会計期間から連結子会社としております。

### (2) 非連結子会社

#### 主要な会社名

SBCS Co., Ltd.

非連結子会社の総資産、経常収益、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

財務諸表等規則第8条第7項の規定により出資者等の子会社に該当しないものと推定された特別目的会社14社の概要等は、「(開示対象特別目的会社関係)」の注記に掲げております。

なお、「一定の特別目的会社に係る開示に関する適用指針(企業会計基準適用指針第15号 平成19年3月29日)」が平成19年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同適用指針を適用しております。

## 2. 持分法の適用に関する事項

### (1) 持分法適用の非連結子会社 3社

#### 主要な会社名

SBCS Co., Ltd.

### (2) 持分法適用の関連会社 31社

#### 主要な会社名

プロミス株式会社  
株式会社セントラルファイナンス  
エヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズ株式会社  
三井住友アセットマネジメント株式会社

株式会社セントラルファイナンス他9社は株式取得等により、当中間連結会計期間より持分法適用の関連会社としております。また、株式会社クオーク他2社は連結子会社となったため、NIFキャピタルマネジメント株式会社他1社は合併等により、当中間連結会計期間より持分法適用の関連会社から除外しております。

### (3) 持分法非適用の非連結子会社

該当ありません。

### (4) 持分法非適用の関連会社

#### 主要な会社名

Sumitomo Mitsui Asset Management (New York) Inc.

持分法非適用の関連会社の中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、持分法適用の対象から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

## 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

### (1) 連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。

3月末日 5社  
4月末日 1社  
6月末日 56社  
7月末日 3社  
9月末日 65社

### (2) 3月末日及び7月末日を中間決算日とする連結子会社は9月末日現在、4月末日を中間決算日とする連結子会社については7月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により、また、その他の連結子会社については、それぞれの中間決算日の財務諸表により連結しております。

中間連結決算日と上記の中間決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

## 4. 会計処理基準に関する事項

### (1) 特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、有価証券市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下、「特定取引目的」という。)の取引については、取引の約定時点を基準とし、中間連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を中間連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については中間連結決算日等の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については中間連結決算日等において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当中間連結会計期間中の受払利息等に、有価証券、金銭債権等については前連結会計年度末と当中間連結会計期間末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当中間連結会計期間末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

### (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券で時価のあるものうち株式については中間連結決算日前1か月の市場価格の平均等、それ以外については中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価のないものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は上記(1)及び(2)と同じ方法により行っております。

### (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く。)の評価は、時価法により行っております。

なお、一部の在外連結子会社においては、現地の会計基準に従って処理しております。

### (4) 減価償却の方法

有形固定資産及びリース資産

当行の有形固定資産の減価償却は、定額法(ただし、動産については定率法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分して計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	7年～50年
動産	2年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により、リース資産については、主にリース期間を耐用年数としリース期間満了時のリース資産の処分見積額を残存価額とする定額法により償却しております。

なお、平成19年度税制改正に伴い、平成19年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく償却方法により減価償却費を計上しております。これによる中間連結貸借対照表等に与える影響は軽微であります。

また、当中間連結会計期間より、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、償却可能限度額に達した連結会計年度の翌連結会計年度以後、残存簿価を5年間で均等償却しております。これによる中間連結貸借対照表等に与える影響は軽微であります。

無形固定資産

無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び国内連結子会社における利用可能期間(主として5年)に基づいて償却しております。

## (5) 貸倒引当金の計上基準

当行及び主要な連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、下記直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認められる額を計上しております。

なお、当行においては、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる破綻懸念先に係る債権及び債権の全部又は一部が3カ月以上延滞債権又は貸出条件緩和債権に分類された今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち与信額一定額以上の大口債務者に係る債権等については、キャッシュ・フロー見積法(DCF法)を適用し、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もり、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等を勘案して必要と認められる金額を特定海外債権引当勘定として計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部店と所管審査部が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

その他の連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は483,786百万円であります。

## (6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

## (7) 退職給付引当金の計上基準

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の損益処理方法は以下のとおりであります。

過去勤務債務：

その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異：

各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から損益処理

## (8) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員(執行役員を含む)に対する退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当中間連結会計期間末の要支給額を計上しております。

役員退職慰労金は、従来は支出時に費用処理しておりましたが、前連結会計年度の下期において役員退職慰労引当金を計上する方法に変更しました。そのため、前中間連結会計期間は変更後の方法によった場合に比べ、経常利益及び税金等調整前中間純利益はそれぞれ5,693百万円多く計上されております。

上記に係るセグメント情報に与える影響はセグメント情報に記載しております。

## (9) 預金払戻引当金の計上基準

預金払戻引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。負債計上を中止した預金の預金者への払戻については、従来は払戻時に損失処理しておりましたが、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第42号)が平成19年4月13日付けで公表されたことを踏まえ、当中間連結会計期間より過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を引当てる方法に変更しております。

この結果、従来の方によった場合に比べ、経常利益及び税金等調整前中間純利益は11,716百万円それぞれ減少しております。

上記に係るセグメント情報に与える影響はセグメント情報に記載しております。

## (10) 特別法上の引当金の計上基準

特別法上の引当金は、金融商品取引責任準備金18百万円であり、受託等をした市場デリバティブ取引に関して生じた事故による損失の補てんに充てるため、金融商品取引法第48条の3の規定に基づき計上しております。

なお、従来、金融先物取引法第81条に基づき、金融先物取引責任準備金を計上しておりましたが、平成19年9月30日に金融商品取引法が施行されたことに伴い、当中間連結会計期間から金融商品取引責任準備金として計上しております。

## (11) 外貨建資産・負債の換算基準

当行の外貨建資産・負債及び海外支店勘定については、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社株式及び関連会社株式を除き、主として中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

また、連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの間接決算日等の為替相場により換算しております。

## (12) リース取引の処理方法

当行及び国内連結子会社のリース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

## (13) リース取引等に関する収益及び費用の計上基準

リース取引のリース料収入の計上方法

主に、リース期間に基づくリース契約上の収受すべき月当たりのリース料を基準として、その経過期間に対応するリース料を計上しております。

割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上方法

主に、割賦契約による支払期日を基準として当該経過期間に対応する割賦売上高及び割賦原価を計上しております。

## (14) 重要なヘッジ会計の方法

・金利リスク・ヘッジ

当行は、金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法として、繰延ヘッジを適用しております。

小口多数の金銭債権債務に対する包括ヘッジについては、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。)に規定する繰延ヘッジを適用しております。

相場変動を相殺する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を残存期間ごとにグルーピングのうえ有効性の評価をしております。また、キャッシュ・フローを固定する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

個別ヘッジについても、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

また、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報

告第15号)を適用して実施してありました多数の貸出金・預金等から生じる金利リスクをデリバティブ取引を用いて総体で管理する従来の「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損益のうち、業種別監査委員会報告第24号の適用に伴いヘッジ会計を中止又は時価ヘッジに移したヘッジ手段に係る金額については、個々のヘッジ手段の金利計算期間に応じ、平成15年度から最長12年間にわたって資金調達費用又は資金運用収益として期間配分しております。なお、当中間連結会計期間末における「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損失の総額は28,190百万円(税効果額控除前)、繰延ヘッジ利益の総額は20,294百万円(同前)であります。

・為替変動リスク・ヘッジ

当行は、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われる通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という。)に基づく繰延ヘッジを適用しております。

これは、異なる通貨での資金調達・運用に伴う外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、その外貨ポジションに見合う外貨建金銭債権債務等が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価するものであります。

また、外貨建子会社株式及び関連会社株式並びに外貨建その他有価証券(債券以外)の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に、包括ヘッジとして繰延ヘッジ又は時価ヘッジを適用しております。

・連結会社間取引等

デリバティブ取引のうち連結会社間及び特定取引勘定とそれ以外の勘定との間(又は内部部門間)の内部取引については、ヘッジ手段として指定している金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等に対して、業種別監査委員会報告第24号及び同第25号に基づき、恣意性を排除し厳格なヘッジ運営が可能と認められる対外カバー取引の基準に準拠した運営を行っているため、当該金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等から生じる収益及び費用は消去せずに損益認識又は繰延処理を行っております。

なお、一部の連結子会社において、繰延ヘッジ会計又は「金利スワップの特例処理」を適用しております。

(15) 消費税等の会計処理

当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(16) 税効果会計に関する事項

中間連結会計期間に係る納付税額及び法人税等調整額は、当行及び国内連結子会社の決算期において予定している剰余金の処分による海外投資等損失準備金の積立て及び取崩しを前提として、当中間連結会計期間に係る金額を計算しております。

## 5. 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、現金及び無利息預け金であります。

## 【中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

(連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針)

企業集団内の会社に投資(子会社株式等)を売却した場合の税効果会計について、「連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第6号 平成19年3月29日)の第30-2項を当中間連結会計期間から適用しております。なお、これによる中間連結貸借対照表等に与える影響は軽微であります。

(金融商品に関する会計基準)

「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)及び「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号)等における有価証券の範囲に関する規定が平成19年6月15日付け及び同7月4日付けで一部改正され、金融商品取引法の施行日以後に終了する連結会計年度及び中間連結会計期間から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から改正会計基準及び実務指針を適用しております。

## 注記事項(平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

(中間連結貸借対照表関係)

- 有価証券には、非連結子会社及び関連会社の株式149,211百万円及び出資金4,649百万円を含んでおります。
- 無担保の消費貸借契約により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債及び株式に合計78,271百万円含まれております。無担保の消費貸借契約により借り入れている有価証券並びに現先取引及び現金担保付債券貸借取引により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券は913,839百万円、当中間連結会計期間末に当該処分をせずに所有しているものは451,439百万円です。
- 貸出金のうち、破綻先債権額は59,358百万円、延滞債権額は518,766百万円です。なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

- 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は31,769百万円です。なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は441,311百万円です。なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は1,051,206百万円です。なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付が替手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は867,838百万円です。

8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

現金預け金	106,326百万円
特定取引資産	617,814百万円
有価証券	4,985,250百万円
貸出金	223,360百万円
その他資産(延払資産等)	2,922百万円

担保資産に対応する債務

預金	20,529百万円
コールマネー及び売渡手形	1,065,000百万円
売現先勘定	142,939百万円
債券貸借取引受入担保金	2,431,734百万円
特定取引負債	165,806百万円
借入金	1,865,904百万円
その他負債	575百万円
支払承諾	163,430百万円

上記のほか、資金決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、現金預け金7,188百万円、特定取引資産272,293百万円、有価証券2,779,447百万円及び貸出金591,044百万円を差し入れております。

また、その他資産のうち保証金は74,769百万円、先物取引差入証拠金は6,471百万円であります。

9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、37,854,972百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが31,438,463百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定められている社内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

10. 当行は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

また、一部の連結子会社も、同法律に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

当行

平成10年3月31日及び平成14年3月31日

一部の連結子会社

平成11年3月31日、平成14年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

当行

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額、同条第4号に定める路線価及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて、奥行価格補正、時点修正、近隣売買事例による補正等、合理的な調整を行って算出。

一部の連結子会社

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて算出。

11. 有形固定資産の減価償却累計額は494,073百万円、リース資産の減価償却累計額は30,743百万円であります。
12. 有形固定資産の圧縮記帳額 67,070百万円  
(当中間連結会計期間圧縮記帳額 百万円)
13. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金521,500百万円が含まれております。
14. 社債には、劣後特約付社債2,255,632百万円が含まれております。
15. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は2,258,816百万円であります。

(中間連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、株式等売却益13,725百万円及び持分法による投資利益12,366百万円を含んでおります。
2. その他経常費用には、貸倒引当金繰入額68,202百万円、貸出金償却58,234百万円及び株式等償却60,315百万円を含んでおります。
3. 特別利益は、固定資産処分益1,118百万円及び償却債権取立益177百万円あります。
4. 特別損失は、固定資産処分損704百万円及び減損損失3,095百万円あります。
5. 当中間連結会計期間において、以下の資産について、回収可能価額と帳簿価額との差額を減損損失として特別損失に計上しております。

(金額単位 百万円)

地域	主な用途	種類	減損損失額
首都圏	遊休資産	11物件 土地、建物等	280
近畿圏	遊休資産	8物件 土地、建物等	2,553
その他	遊休資産	8物件 土地、建物等	262

当行は、継続的な収支の管理・把握を実施している各営業拠点(物理的に同一の資産を共有する拠点)をグルーピングの最小単位としております。本店、研修所、事務・システムの集中センター、福利厚生施設等の独立したキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。また、遊休資産については、物件ごとにグルーピングの単位としております。また、連結子会社については、各営業拠点をグルーピングの最小単位とする等の方法でグルーピングを行っております。

当中間連結会計期間は、当行では遊休資産について、投資額の回収が見込まれない場合に、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

回収可能価額は、正味売却価額により算出しております。正味売却価額は、不動産鑑定評価基準に準拠した評価額から処分費用見込額を控除する等により算出しております。

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位 株)

	前連結会計年度末株式数	当中間連結会計期間増加株式数	当中間連結会計期間減少株式数	当中間連結会計期間末株式数
発行済株式				
普通株式	56,355,849	—	—	56,355,849
第1回第六種優先株式	70,001	—	—	70,001
合計	56,425,850	—	—	56,425,850

2. 新株予約権に関する事項

(単位 株、百万円)

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数			当中間連結会計期間末残高
			前連結会計年度末	当中間連結会計期間増加	当中間連結会計期間減少	
連結子会社	—	—	—	—	—	27
合計	—	—	—	—	—	27

3. 配当に関する事項

基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たりの金額(円)
普通株式	71,515	1,269
第1回第六種優先株式	3,097	44,250

決議：平成19年11月19日取締役会  
 配当の原資：利益剰余金  
 基準日：平成19年9月30日  
 効力発生日：平成19年11月19日

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(金額単位 百万円)	
平成19年9月30日現在	
現金預け金勘定	5,876,290
有利息預け金	3,438,597
現金及び現金同等物	2,437,692

2. 重要な非資金取引の内容

議決権の所有割合の増加により新たに連結子会社となった株式会社クオーク他2社の資産及び負債の主な内訳は以下のとおりであります。

資産	1,504,288百万円
（うちその他資産	548,428百万円）
（うち支払承認見返	891,593百万円）
負債	1,471,831百万円
（うち借入金	436,628百万円）
（うち支払承認	891,593百万円）

(リース取引関係)

1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

(1) 借手側

- ・リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び当中間連結会計期間末残高相当額

(金額単位 百万円)			
	動産	その他	合計
取得価額相当額	11,697	1,191	12,888
減価償却累計額相当額	4,973	645	5,619
当中間連結会計期間末残高相当額	6,723	545	7,268

- ・未経過リース料当中間連結会計期間末残高相当額

(金額単位 百万円)		
1年内	1年超	合計
2,211	5,300	7,511

- ・支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料	1,115百万円
減価償却費相当額	983百万円
支払利息相当額	128百万円

- ・減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

- ・利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各中間連結会計期間への配分方法については、利息法によっております。

(2) 貸手側

- ・リース資産に含まれているリース物件の取得価額、減価償却累計額及び当中間連結会計期間末残高

(金額単位 百万円)			
	動産	その他	合計
取得価額	45,091	2,850	47,942
減価償却累計額	27,101	1,478	28,580
当中間連結会計期間末残高	17,989	1,372	19,361

- ・未経過リース料当中間連結会計期間末残高相当額

(金額単位 百万円)		
1年内	1年超	合計
7,448	12,976	20,424

- ・受取リース料、減価償却費及び受取利息相当額

受取リース料	4,569百万円
減価償却費	3,941百万円
受取利息相当額	555百万円

- ・利息相当額の算定方法

リース料総額と見積残存価額との合計額から、これに対応するリース物件の取得価額を控除した金額を利息相当額とし、各中間連結会計期間への配分方法については、利息法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

(1) 借手側

- ・未経過リース料

(金額単位 百万円)		
1年内	1年超	合計
10,822	45,889	56,711

(2) 貸手側

- ・未経過リース料

(金額単位 百万円)		
1年内	1年超	合計
460	590	1,050

なお、上記1、2に記載した貸手側の未経過リース料のうち3,651百万円を借入金等の担保に提供しております。

(ストック・オプション等関係)

ストック・オプションに係る当中間連結会計期間における費用計上額及び科目名

営業経費 12百万円

(開示対象特別目的会社関係)

1. 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要

当行は、顧客から売掛債権の金銭債権買取業務等を行う特別目的会社(ケイマン法人及び有限責任中間法人等の形態によっております。)14社に係る借入及びコマース・ペーパーでの資金調達に関し、貸出金、信用枠及び流動性枠を供与しております。

特別目的会社14社の直近の決算日における資産総額(単純合算)は2,865,600百万円、負債総額(単純合算)は2,865,738百万円であります。なお、いずれの特別目的会社についても、当行は議決権のある株式等は有しておらず、役員や従業員の派遣もありません。

2. 当中間連結会計期間における特別目的会社との取引金額等

(金額単位 百万円)			
	主な取引の当中間連結会計期間末残高 平成19年9月30日現在	主な損益 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	
		項目	金額
貸出金	2,158,322	貸出金利息	3,950
信用枠	859,423	役員取引等収益	1,541
流動性枠	429,459	—	—

(1株当たり情報)

	(金額単位 円)
1株当たり純資産額	67,409.07
1株当たり中間純利益	2,984.80
潜在株式調整後1株当たり中間純利益	2,984.74

(注)1. 1株当たり中間純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり中間純利益	
中間純利益	171,308百万円
普通株主に帰属しない金額	3,097百万円
(うち優先配当額)	3,097百万円
普通株式に係る中間純利益	168,211百万円
普通株式の中間期中平均株式数	56,355千株
潜在株式調整後1株当たり中間純利益	
中間純利益調整額	3百万円
(うち連結子会社及び持分法適用関連会社発行の新株予約権)	3百万円
普通株式増加数	一千株
(うち優先株式)	一千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	5,410,538百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	1,611,642百万円
(うち優先株式)	210,003百万円
(うち優先配当額)	3,097百万円
(うち新株予約権)	27百万円
(うち少数株主持分)	1,398,514百万円
普通株式に係る中間期末の純資産額	3,798,895百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末の普通株式の数	56,355千株

## 有価証券関係（平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日）

### 有価証券の範囲

中間連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。

### (1) 満期保有目的の債券で時価のあるもの

（金額単位 百万円）

	平成19年9月末		
	中間連結貸借 対照表計上額	時価	差額
国債	629,520	624,234	5,285
地方債	97,206	95,885	1,321
社債	386,456	383,881	2,575
その他	5,630	5,633	2
合計	1,118,814	1,109,634	9,179

（注）時価は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

### (2) その他有価証券で時価のあるもの

（金額単位 百万円）

	平成19年9月末		
	取得原価	中間連結貸借 対照表計上額	評価差額
株式	1,957,354	3,691,880	1,734,525
債券	7,907,463	7,744,223	163,239
国債	6,742,463	6,592,967	149,495
地方債	437,521	430,861	6,659
社債	727,478	720,394	7,083
その他	3,731,060	3,690,084	40,976
合計	13,595,878	15,126,188	1,530,310

（注）1. 中間連結貸借対照表計上額は、株式については主として当中間連結会計期間末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された額により、また、それ以外については、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。

2. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したのものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって中間連結貸借対照表価額とし、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。当中間連結会計期間におけるこの減損処理額は69,468百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

### (3) 時価評価されていない有価証券の主な内容及び中間連結貸借対照表計上額

（金額単位 百万円）

	平成19年9月末
満期保有目的の債券 売掛債権信託受益権等	1,236
その他有価証券 非上場株式（店頭売買株式を除く）	390,023
非上場債券	2,715,372
非上場外国証券	694,949
その他	614,338

有価証券関係（平成18年度中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）

有価証券の範囲

中間連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。

(1) 満期保有目的の債券で時価のあるもの

（金額単位 百万円）

	平成18年9月末		
	中間連結貸借 対照表計上額	時価	差額
国債	749,983	740,068	9,915
地方債	96,997	94,594	2,403
社債	379,828	375,729	4,099
その他	9,917	10,139	222
合計	1,236,726	1,220,530	16,195

（注）時価は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

(2) その他有価証券で時価のあるもの

（金額単位 百万円）

	平成18年9月末		
	取得原価	中間連結貸借 対照表計上額	評価差額
株式	1,975,076	3,624,863	1,649,787
債券	9,328,369	9,152,117	176,252
国債	7,874,685	7,719,249	155,436
地方債	512,392	501,778	10,613
社債	941,292	931,089	10,202
その他	4,175,686	4,140,944	34,742
合計	15,479,132	16,917,925	1,438,792

（注）1. 中間連結貸借対照表計上額は、株式については主として当中間連結会計期間末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された額により、また、それ以外については、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。

2. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したのものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって中間連結貸借対照表価額とし、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。当中間連結会計期間におけるこの減損処理額は1,243百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先 時価が取得原価に比べて下落  
 要注意先 時価が取得原価に比べて30%以上下落  
 正常先 時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

(3) 時価評価されていない有価証券の主な内容及び中間連結貸借対照表計上額

（金額単位 百万円）

	平成18年9月末
満期保有目的の債券 その他	8,667
その他有価証券 非上場株式(店頭売買株式を除く) 非上場債券 非上場外国証券 その他	472,476 2,729,834 473,946 393,974

## 金銭の信託関係

(平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

### (1) 満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

### (2) その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(金額単位 百万円)

	平成19年9月末		
	取得原価	中間連結貸借 対照表計上額	評価差額
その他の金銭の信託	2,549	2,627	78

(注) 中間連結貸借対照表計上額は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

## その他有価証券評価差額金

(平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

中間連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(金額単位 百万円)

	平成19年9月末
評価差額	1,530,596
その他有価証券	1,530,518
その他の金銭の信託	78
( )繰延税金負債	465,206
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	1,065,390
( )少数株主持分相当額	4,301
( + )持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	683
その他有価証券評価差額金	1,061,772

(注) その他有価証券の評価差額は時価のない外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く)を含んでおります。

## 金銭の信託関係

(平成18年度中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)

### (1) 満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

### (2) その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(金額単位 百万円)

	平成18年9月末		
	取得原価	中間連結貸借 対照表計上額	評価差額
その他の金銭の信託	2,602	2,820	217

(注) 中間連結貸借対照表計上額は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

## その他有価証券評価差額金

(平成18年度中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)

中間連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(金額単位 百万円)

	平成18年9月末
評価差額	1,439,004
その他有価証券	1,438,786
その他の金銭の信託	217
( )繰延税金負債	584,262
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	854,741
( )少数株主持分相当額	6,261
( + )持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	1,809
その他有価証券評価差額金	850,289

(注) その他有価証券の評価差額は時価のない外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く)を含んでおります。

デリバティブ取引関係（平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日）

(1) 金利関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	金利先物	119,270,426	2,088	2,088
	金利オプション	111,548	0	0
店頭	金利先渡契約	4,584,433	17	17
	金利スワップ	434,852,621	84,007	84,007
	金利スワップション	8,237,708	19,422	19,422
	キャップ	45,458,961	13,767	13,767
	フロアー	6,222,614	1,335	1,335
	その他	7,231,835	22,013	22,013
合計			112,412	112,412

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	22,172,254	43,572	106,075
	通貨スワップション	1,571,635	9,699	9,699
	為替予約	58,247,707	131,623	131,623
	通貨オプション	11,459,954	48,197	48,197
合計			126,548	64,045

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の中間連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	株式指数先物	162,186	1,981	1,981
店頭	有価証券店頭オプション	517,185	0	0
合計			1,981	1,981

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(4) 債券関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	債券先物	3,716,029	3	3
	債券先物オプション	10,000	27	27
店頭	債券先渡契約	69,716	1,731	1,731
合計			1,762	1,762

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(5) 商品関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	商品先物	430	43	43
店頭	商品スワップ	556,848	83,587	83,587
	商品オプション	49,973	5,147	5,147
合計			88,777	88,777

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

2. 商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6) クレジットデリバティブ取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション	3,294,459	1,257	1,257
	その他	85	0	0
合計			1,257	1,257

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

デリバティブ取引関係（平成18年度中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）

(1)金利関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成18年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	金利先物	104,551,884	951	951
店頭	金利先渡契約	10,103,047	516	516
	金利スワップ	430,348,581	95,170	95,170
	金利スワップション	5,418,113	23,650	23,650
	キャップ	24,281,152	23,902	23,902
	フロアー	4,672,579	1,316	1,316
	その他	4,316,614	22,838	22,838
合計			117,605	117,605

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。  
 また、一部の在外連結子会社において、現地の会計基準に従って処理している金利関連取引は、上記記載から除いております。なお、この未実現損益は183百万円(損失)であります。

(2)通貨関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成18年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	20,049,213	90,411	45,306
	通貨スワップション	2,100,318	8,382	8,382
	為替予約	48,856,800	54,205	54,205
	通貨オプション	7,624,342	61,336	61,336
合計			16,747	61,853

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の中間連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。  
 また、一部の在外連結子会社において、現地の会計基準に従って処理している通貨関連取引は、上記記載から除いております。なお、この未実現損益は74百万円(利益)であります。

(3)株式関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成18年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	株式指数先物	89,869	21	21
店頭	有価証券店頭オプション	183,359	0	0
合計			21	21

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(4)債券関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成18年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	債券先物	1,860,765	537	537
店頭	債券先渡契約	68,993	1,693	1,693
	債券店頭オプション	104,000	12	12
合計			1,142	1,142

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(5)商品関連取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成18年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	商品先物	14,496	268	268
店頭	商品スワップ	560,099	90,463	90,463
	商品オプション	43,822	5,768	5,768
合計			95,963	95,963

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。  
 2. 商品は燃料及び金属に係るものであります。

(6)クレジットデリバティブ取引

(金額単位 百万円)

区分	種類	平成18年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション	1,321,566	1,118	1,118
	その他	175	0	0
合計			1,117	1,117

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

## セグメント情報

### (1) 事業の種類別セグメント情報

平成 19 年度中間期 (自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 9 月 30 日)

(金額単位 百万円)

	銀行業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 経常収益					
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,464,569	90,185	1,554,755	—	1,554,755
(2) セグメント間の内部経常収益	16,164	93,237	109,402	(109,402)	—
計	1,480,734	183,423	1,664,157	(109,402)	1,554,755
経常費用	1,217,392	121,741	1,339,133	(100,413)	1,238,720
経常利益	263,342	61,681	325,023	(8,988)	316,035
II 資産	101,186,366	5,751,912	106,938,279	(3,215,609)	103,722,670

- (注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。また、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 各事業の主な内容
- (1) 銀行業……………銀行業
- (2) その他事業……………リース、証券、クレジットカード、投融資、融資、ベンチャーキャピタル、システム開発・情報処理業
3. 中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計処理基準に関する事項(8)に記載のとおり、役員退職慰労金は、従来は支出時に費用処理していましたが、前連結会計年度の下期において役員退職慰労引当金を計上する方法を変更しました。そのため、前中間連結会計期間は変更後の方法による場合に比べ、「経常利益」は「銀行業」について4,556百万円、「その他事業」について1,136百万円それぞれ多く計上されております。
4. 中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計処理基準に関する事項(9)に記載のとおり、負債計上を中止した預金の預金者への払戻については、従来は払戻時に損失処理していましたが、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第42号)が平成19年4月13日付けで公表されたことを踏まえ、当中間連結会計期間より過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を引当てる方法に変更しております。この結果、従来の方法による場合に比べ、「経常利益」は「銀行業」について11,716百万円減少しております。

平成 18 年度中間期 (自 平成 18 年 4 月 1 日 至 平成 18 年 9 月 30 日)

(金額単位 百万円)

	銀行業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 経常収益					
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,232,543	119,995	1,352,539	—	1,352,539
(2) セグメント間の内部経常収益	18,351	75,274	93,626	(93,626)	—
計	1,250,895	195,270	1,446,165	(93,626)	1,352,539
経常費用	936,979	181,287	1,118,267	(84,492)	1,033,774
経常利益	313,915	13,982	327,898	(9,133)	318,765
II 資産	98,852,686	4,149,535	103,002,222	(2,952,678)	100,049,543

- (注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。また、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 各事業の主な内容
- (1) 銀行業……………銀行業
- (2) その他事業……………リース、証券、クレジットカード、投融資、融資、ベンチャーキャピタル、システム開発・情報処理業

## (2) 所在地別セグメント情報

平成19年度中間期(自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

(金額単位 百万円)

	日本	米州	欧州・中近東	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連結
経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,174,866	137,632	130,261	111,994	1,554,755	—	1,554,755
(2) セグメント間の内部経常収益	55,983	28,270	7,912	23,667	115,833	(115,833)	—
計	1,230,850	165,902	138,174	135,662	1,670,589	(115,833)	1,554,755
経常費用	996,988	126,668	122,014	100,101	1,345,772	(107,052)	1,238,720
経常利益	233,861	39,234	16,159	35,560	324,816	(8,781)	316,035

- (注) 1. 当行の本支店及び連結子会社について、地理的近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と国又は地域ごとに区分の上、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には香港、シンガポール共和国、オーストラリア等が属しております。
3. 中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計処理基準に関する事項(8)に記載のとおり、役員退職慰労金は、従来は支出時に費用処理していましたが、前連結会計年度の下期において役員退職慰労引当金を計上する方法に変更しました。そのため、前中間連結会計期間は変更後の方法によった場合に比べ、「経常利益」は「日本」について5,693百万円多く計上されております。
4. 中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計処理基準に関する事項(9)に記載のとおり、負債計上を中止した預金の預金者への払戻については、従来は払戻時に損失処理していましたが、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第42号)が平成19年4月13日付で公表されたことを踏まえ、当中間連結会計期間より過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を引当てる方法に変更しております。この結果、従来の方法によった場合に比べ、「経常利益」は「日本」について11,716百万円減少しております。

平成18年度中間期(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)

(金額単位 百万円)

	日本	米州	欧州	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連結
経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,058,689	119,153	81,991	92,704	1,352,539	—	1,352,539
(2) セグメント間の内部経常収益	44,782	21,822	2,849	27,032	96,487	(96,487)	—
計	1,103,472	140,976	84,841	119,737	1,449,026	(96,487)	1,352,539
経常費用	856,680	101,982	68,373	95,777	1,122,813	(89,039)	1,033,774
経常利益	246,791	38,993	16,468	23,960	326,213	(7,448)	318,765

- (注) 1. 当行の本支店及び連結子会社について、地理的近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と国又は地域ごとに区分の上、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には香港、シンガポール共和国、オーストラリア等が属しております。

## (3) 海外経常収益

(金額単位 百万円)

	平成18年度中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日
海外経常収益	293,849	379,888
連結経常収益	1,352,539	1,554,755
海外経常収益の連結経常収益に占める割合	21.7%	24.4%

- (注) 1. 一般企業の海外売上高に代えて、海外経常収益を記載しております。
2. 海外経常収益は、当行の海外店取引、並びに在外連結子会社の取引に係る経常収益(ただし、連結会社間の内部経常収益を除く。)で、こうした膨大な取引を相手先別に区分していないため、国又は地域毎のセグメント情報は記載しておりません。